

宇宙電波懇談会

事務局連絡 No. 3.

1970/5/21 事務局(東京天文台宇宙電波部内)

① 総会報告

宇電コン総会が下記のように開かれました。

1970/5/12, 18^h00^m ~ 19^h00

東京, 文京区民センター

田中 運営委員長司会

議題

1. 事務局々の組織問題については「連絡 No. 2」の通り; 事務局は東京天文台, 事務局長 森本, 事務局員 4 名(海部, 平林, 加藤, 大郎堂), 運営委員の任期は 2 年, 事務局も同時に動かすことが承認された。

(選挙は別紙の通り 6 月 10 日 締切り)で行われ, 6 月下旬の天文研連までには態勢がととのうようにする。

2. 宇宙電波将来計画推進委員について

④ 天文, 電波, 研連から各 3 名, 宇電コンメンバーから 6 名で構成し, ④「連絡 No. 2」に出された大筋で両研連に働きかける。

⑤ 両研連の態度が決まりしだい発足できるように宇電懇としては 6 名のメンバープラス補欠を選んでおくこと。⑥ 選挙されたメンバーは発足までの間も宇電コンサイドでの推進の中心となることが確認された。補欠は選挙で選ばれた人が研連からのメンバーに入った場合にくりあげるためである。

3. 鹿島シンポジウム其他の活動方針について。鹿島シンポジウムは森本より「連絡 No. 2」の線でご提案され承認された。SAM と共催による「観測天文学シンポジウム」は海部から発議があったが, SAM ともう少し具体的なものにするということになった。

今後の運営は, 運営委員ができるだけ多くの会員と接触し, 情報は「事務局連絡」でまめに流し学会のときに総会をひらくという線で行っていくことになった。

② その後, 電波研連から 田中, 森本, 赤羽 の 3 氏が推進委員に選ばれました。

③ 鹿島シンポジウム

総会での承認に基づいて 準備委員の川尻、平林、福井によりプログラム内容および開催のための検討が行なわれ、プログラムの第0決案として、次のようなものを考えた。

	午前	午後	夜
前日		午後4時30分に集合。 散々互々懇話会まで必要に応じて 所内設備見学	観測の見学 (実際にやる)
第一日	・開会の辞 10^m ・シンポジウムの展開、運営について 10^m ・INTRO. および問題提起 A. 世界的な立場からみた鹿島 40^m B. 鹿島の歴史とそこから見た鹿島 40^m ・上記二講演をめぐっての DISCUSSION 40^m	・鹿島の位置 A. アンテナ、受信系統(鹿島) 40^m B. トラッキング、情報処理(橋本) 40^m ・質問、および DISCUSSION ・鹿島での研究の歴史 A. 鹿島グループ 30^m B. 天文台グループ 30^m ・質問、および DISCUSSION	懇親会
第二日	・観測計画および提案 各20^m前後 - X線源、 - VLB - 銀河バックグラウンド - LINEAR POLARIZATION - QSO time variation - etc ・以上に関して DISCUSSION ・鹿島に関連した天体物理	・以上の討論に応じて 向陽星の討論 ・FREE DISCUSSION ・まとめ	帰る用意のための4時30分閉会

- ・開催期日 9月あるいは11月
- ・宿泊 近くの民宿(海辺のそば)? 2泊、約40人?
- ・プログラム案は改良の余地があり、積極的な批判、提案を求めています。開催までに数回の準備委員会の予定。フィードバックを交わせるため、常時ニュースの発送をします。とりあえず6月中旬に予定しているので、講演の用意のある人、苦情、提案等は6月10日ごろまでにお送り下さい。もちろんそれ以後もかまいません。連絡は事務局の平林まで。

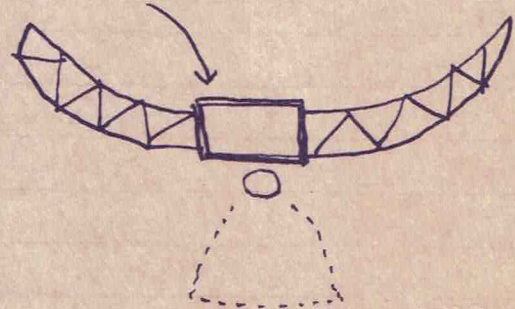
④ SAM-宇電コン合同シンポジウムについて

観測的な面から日本の天文学の未来のために大いに討論を促すため、内におおくの観測者をかかして SAM と宇電コンが合同してシンポジウムを一年後にあはす事について SAM 3人、宇電コン 3人、外部 2人の非公式の準備人が検討、連絡、折衝あることを有志の集まりで決めた。とりあえず宇電コンでは川尻、福井、平林、ということにその場で決めた。これについて意見のある方は事務局まで、SAM の方は未決定。その辺の事務、連絡は、しばらく宇電コンとし、連絡人 E 平林とした。

⑤ 45mφ PROGRESS REPORT

A. アンテナ面の設計について HOMOLOGOUS DEFORMATION の思想に基づいて 三ツビシ電気の協力を得て、その計算機で 2次元の計算がなされ、パリの各要素の変化によるパラボラ面がズレにいかにかゝって来るかめわかってきている。これによるアンテナ面の HOMOLOGOUS DEFORMATION の設計の見直しは、かなり進めてきた。計算は 3次元へと進む段階であり、また CENTER HUB のモデル実験により、実際の場合への変形の理論の適用性が調べられている。

5月18日、三ツビシ電気と天竺宇宙電波グループで以上が確認され、今後の検討の進め方について討論された。



B. 土地えらびについて は三ツビシ

電気のいくつかのアンテナの建設の経験に基づいて、有益な事柄がわかってきた。その結果、ボーリングにより標準貫入試験、地質検査をしてみるとかなりの事がわかる。ノイズ調査については、天文台グループを中心として、経験があるので自信あり。とりあえず野辺山でこれらの調査をする予定である。

⑥ 新入会員、人事移動 (敬称略)

新入会員 新野賢爾 (電波研) ^{オモタカ} 面高 ... (名大理)
近田義広 (東大理、事務局の手伝いをしもらうつもり)
人事移動 小川 ... (名大理内で A 研助手に兼任)
田原博人 (正大理より東京天文台グループに.)

◎ 新入会希望、人事移動、とんじん知らせてください。

⑦ 電波天文ヒックス

★ NRAO で 2.6 mm ^{CO} ~~line~~ line が見つかる。

★ BONN 100mφ 3月にアンテナ面もち上げ開始。現在かなり進行中のはず。